B'.4.0.0.1(第一部)

鉱業、運輸、商業、農業、水産業、人口動態等の諸方面の数字は、今回の戦争の為の物資の可能性は殆んど全部の死命を制するものである。

4、貿易量は、戦前に比べ、約三分の一に減少し、輸入は三億円以下であるのに輸出は約五億円を超えているといわれ、原材料輸入産業の三分の一以下に減少し、輸出マルト等大の原因となっている。

5、賃金、物価の騰貴は、戦前の約三倍に達し、生産費の低下に伴う賃上げ問題により、生産費は低下せず、物価は大幅に騰貴する。

6、産業中の新興産業は、戦前五億円程度であったが現在は六〇億円程度である。

をとると、一方農業等は多少増加したが生産数の減少、農産物は戦前の約三分の一以下に低下している。即ち農業は殆ど全部の生産力から見ると、戦前の水準に達していないのである。それいか故か、戦後の農業の不振は、一方に於て飼料の不足、肥料の不足、農具の不足、農業用動力の不足、農業経営の困難、農業用動力の不足、農業用動力は少くないというべきである。二十一年十月までは農業用動力は少しずつ上昇したが、その後は一般的に低下し、しかも再び物価不安は一般的に農業生産物価格の上昇、従って物価、賃金の騰貴を強調する事が物資の引上げ、農業の引上げを促す。」とのいわゆる悪循環の打破がインフレ対策の重のキーポイントでなければならない。

6、通貨増発の圧縮と財政金融面の国際

B'.4.0.0.1(第二部)

現金の引出し、既設資金の繰延べ及び資金の貸出しが盛
発現象の出現現象で、ゆつた、今日は特に三月末に於ける
よるものかなり出現と考へられる。
既設の内容と関係もしくは、としては既設資金の
既設家賃、既設家賃、金銭その他金融機関に関す
する設備投資、人員の増加設備投資、金銭その他金融機関に関す
る供給り増加設備の拡充であり、今後もこれらの支出の多
くは増大するであらう。なお既に関する最大として最も顕著な
な現象は物価上昇傾向であり、財政政策の故人も時
期の進展による一般物価の高騰を招かなか
つた。一般に物価上昇は最大度に大きくひびき金融面を一
そう困難ならしめる傾向がある。

英国経済状況の推移

以上述べた如く日本経済は今マ正に崩壊の危機に直面しつつ
るが他国共通の現象の中に於て経済の構造化に各方面に亘り強
度に変化せられつつある日本経済の復興に関して一連の共通を
後付つつある足下殖民政策は行はれたる日本経済構造化の過渡に
付、略述するとともとする。

1、諸国の動向

大戦国全大会政治が其の強大なる資本力を以て国の経済の重要
部分を支配して来たのが日本経済の一大特色であつた英国の
国土的大会政治の成時と共に出日本経済の国際的進出
力増加に伴立つて共に国内資本の蓄積、政治的力の増加等
の反面を有して居て、殖民地失業者に関する問題
体に関する問題は今日、五千、五千、佐友等の十大財閥を多く

B'.4.0.0.1(第一部)

外務省

外務省

0360

0361

B.A.0.0.1(1)

B.4.0.0.1(第2部)

0362

外務省

B'.4.0.0.1(第二部)

(8) 産業その他の経済概況説

B'.4.0.0.1(第二巻)

産業その他の戦争損害状況

総務局総務課

「戦災の概況とその計画

今次戦争によって日本経済が受けた損害については、いまだ総括的な調査が完成していない。従って現在入手し得る部分的な報告を基礎として以下之が概算を試みる。

昭和二十年十一月戦災復興院によって調査された戦災損害調査の結果をみると、概要左の通りである。尚比較の便宜上大正十二年の関東大震災による損害を附記する。

	太平洋戦争戦災	関東大震災損害
死者及び行方不明	二七九九九四名	一〇四六一九名
負傷者	三六一一七五名	三二〇七四名
全焼坪数	三五六五〇二八坪	四六六一九九坪
半焼坪数	九四七一六坪	一九一七四九坪
罹災者（負傷者を含む）	八七五四〇四一名	三五四八〇九二名

B'.4.0.0.1(第一巻)

職員都市數　一一九都市

右の職員者數は内地總人口の一二%、主要都市人口の二八%となる。また國勢大臣職員と比較すれば今回の職員損害は家屋の約五倍、從員人口に對して三倍半の大きさに相當する。

次に最近職員復興院が試みに概算によると損害金額は特定都市のみに付て見ても左の通りとなる。（職員戸數は指定都市のみとした為前記數字より少くなっている）

◎職員戸數　二、五四七、二五二戸

◎職員面積（道路、公園等を含む）　一、七四六、二七九、四九坪

◎職員住宅損害價格　二、八二九、四六七、六〇〇圓

◎水道職員損害　一、九六〇、〇〇〇、〇〇〇圓

◎下水道職員損害　六五〇、〇〇〇、〇〇〇圓

◎橋梁職員損害　一六五、五四四、四平方

◎船舶を除く從員地上物件　一、四七〇、〇〇〇、〇〇〇圓

◎職員損害總價格　八七五、一五九、七四五、〇〇〇圓

右の概算中には海上物件をはじめとして鐵道、車輛、通信施設電氣及び瓦斯設備、港湾施設等の受けた損害が含まれていない。また右の地上物件の損害推定は、普通家屋に於ける家具、什器の所有價格を標準として見積ったもので、工場の機械設備、倉庫中にあったストックの場に關する價格計算が別個に行はれているわけではない。從ってこれらのものを加えれば、その損害總額が遙かに大きくなることは勿論である。

尙海上の損害に付ては之を海上保險の面より推算すると左の通りである。

一、一四九、九二五、二一〇圓

海上物件

B'.4.0.0.1(第二巻)

(イ)昭和二十年四月より昭和二十一年
三月迄の支拂済みのもの　五五九〇〇〇〇〇円
(ロ)同上の支拂未済のもの（概定）　三三〇〇〇〇〇〇円
(ハ)同合計　一〇八九〇〇〇〇〇〇円

（註）国内に昭和二十年四月末に於ける陸上職員数は約二十万人と概定される。
千職員による出炭量減の能力減退の状況
次に坑炭産業の生産能力が職員の給与などの強度に低下したかを
調査作成資料により見ることとする。

外務省

B.4.0.0.1(第二巻)

生産能力及失業状況

（時事年鑑より）

品目	昭和十九年末 生産能力(A)	能力未充実量(A)-(B)	能力未充実量(A)%	能力未充実量(B)その他	二十年八月末現在生産能力 能力状況	(B)/(A)
石炭	三〇〇〇〇千瓩	一	一	一	三八〇〇〇千瓩	七六
石油類似	三五六〇〇〇千立	三二	三一	二二	一二二〇〇〇千立	三四
人造石油	九〇〇〇〃	六一	一	一	三五〇〇〇〃	三九
アルコール	一三五〇〇〃	三三	一	一	九一〇〇〃	六七
統制	四〇〇〇〇瓩	三三	一	一	三三〇〇〇瓩	六一
普通鋼	四〇〇〇〇〃	五〇	三	一	三〇〇〇〇〃	六七
特殊鋼	一〇〇〇〇〃	四四	一	一	六〇〇〇〃	六〇
アルミニウム	一四〇〇〇〃	二〇	一四	五	三六〇〇〇〃	四〇
マグネシウム	六〇〇〇〃	一五	五	一〇	円二〇〇〃	七〇

0369 1/2

B.4.0.0.1(第一号)

（官房秘書課）

人員十万円以上千万円未満の部		三十万人以上百万人未満の部		千万人以上の部		計
部局名	職員数	職員数（人）	経費	部局名	職員数	経費
外務省	一〇〇〇千円	六六	三八〇〇〇千円	外務省	一一六〇〇〇千円	一〇〇〇千円
〃	一一四〇〇〇千円	四一	一一〇〇〇〇千円	〃	一一四〇〇〇千円	一一四〇〇〇千円
〃	六一〇〇〇〇	一一九	一一四〇〇〇	〃	一一〇〇〇〇	六一〇〇〇〇
〃	〇	六一	九一〇〇〇	〃	〇	〇
〃	一一六〇〇〇円	六一	三一〇〇〇〇円	〃	一一六〇〇〇円	一一六〇〇〇円
〃	一一〇〇〇〇	一一一	二一〇〇〇〇	〃	一一〇〇〇〇	一一〇〇〇〇
〃	一〇〇〇〇	六〇	六〇〇〇〇	〃	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
〃	一一〇〇〇	一〇	一一六〇〇	〃	一一〇〇〇	一一〇〇〇
〃	一一〇〇〇	一一〇	一一四〇〇	〃	一一〇〇〇	一一〇〇〇

人員十万円以上千万円未満の部		三十万人以上百万人未満の部		千万人以上の部		計
部局名	職員数	職員数（人）	経費	部局名	職員数	経費
外務省	一六六〇〇〇千円	四六	三八〇〇〇千円	外務省	一一六〇〇〇千円	一〇〇〇千円
〃	一一四〇〇〇千円	四一	一一〇〇〇〇千円	〃	一一四〇〇〇千円	一一四〇〇〇千円
〃	一一〇〇〇	一一九	一一四〇〇〇	〃	一一〇〇〇	六一〇〇〇
〃	〇	六一	九一〇〇〇	〃	〇	〇
〃	一一六〇〇〇円	六一	三一〇〇〇〇円	〃	一一六〇〇〇円	一一六〇〇〇円
〃	一一〇〇〇	一一一	二一〇〇〇〇	〃	一一〇〇〇	一一〇〇〇
〃	一〇〇〇	六〇	六〇〇〇〇	〃	一〇〇〇	一〇〇〇
〃	一一六〇〇	一〇	一一六〇〇	〃	一一〇〇	一一〇〇
〃	一一四〇〇	一一〇	一一四〇〇	〃	一一〇〇	一一〇〇

B'.4.0.0.1(第二部)

外務省

鋼	一四五〇〇〇噸	五五				七九〇〇〇噸
人絹	七五〇〇〇〇千封度	一				七五〇〇〇〇千封度
メッカ	一七〇〇〇〇〃	六				一六〇〇〇〇〃
自動車	一五〇〇〇〇

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

B.4.0.0.1(三)

外務省

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

1/2

0371

B'.4.0.0.1(第5)

外務省

外務省

B.4.0.0.1(第二)

2/2

0371

戦争による損害

次に運輸通信方面に於てはどの程度の損害があつたかをみよう。

(イ)船舶

戦前わが国の保有汽船総トン数は左の如く六百三十八万四千トンであつたが、終戦直時は百五十六万一千トンと約四分の一に減じている。

種別	終戦	千総噸	終戦二十年八月	千総噸
汽船	三七三六	六三八四・〇	一〇〇九	一五六一・五
A	三一一	三〇六四・六	一	一
貨物船	B	七〇〇	一九四五・四	三	一
C	一一二	三〇六〇・五	六〇〇	一〇九六・九
油槽船・特殊船	四一三	五一三・七	四〇九	八四六四・四
機帆船(物船)	一	三一五四	一九六・〇	

(備考)×印内訳次の通り(単位千噸)、タンカー一四五六八、交通船三八〇〇千、貨物船一〇八五五〇、機帆船一七八〇〇

三六六〇四、運船一

(ロ)運輸施設

各種車輌の戦災状況は次の如くである。

種別	戦前保有数	戦災車数	戦災割合
蒸気機関車	一四・八%	八五二	三九
電気機関車	一五・五%	三一一	二五・六%
電動車	二六・四%	二五二	二六・四%
電動車附属車	二〇・六%	三二二八	一七五九八
客車	八・一%		
貨車			

また車輌工場、車輌修理工場はそれぞれ約半数の損害を受け、